

7-7

レクリエーション

サービス向上

サービス向上に向けての取り組み

～職員も利用者も、みんな楽しいレクリエーション～

至誠ホーム 柏地域福祉サービスセンター

発表者：相談員 金光守、川鍋治、木原和恵

所在地：東京都立川市柏町1-12-11-1階

TEL：042-535-5510

E-mail：kashiwa@shisei.or.jp

FAX：042-535-0908

URL：<http://www.shisei.or.jp/>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

社会福祉法人至誠学舎立川 至誠ホーム 柏地域福祉サービスセンターは、平成5年、立川市の委託を受けて都営住宅の1階にデイホームを主とした事業を開設し、至誠ホームのサービス理念に基づいて利用者本位のサービスを展開しています。

＜取り組んだ課題＞

・現状で行っているレクリエーション（以下レク）について、マンネリ化や、職員の苦手意識・無計画・その場しのぎ的な雰囲気がある。また、同じことを長時間行うことでの利用者の疲労感や、たいくつそうな様子がみられる時もあり、レク全般に改善の必要性がある。

＜具体的な取り組み＞

●現状把握

・現在のレクについて、利用者・職員共にアンケートを実施。
・アンケート結果より、問題・改善点を抽出。
→利用者よりも、職員の方がレクに対しての問題意識を持っていることが判明。

●計画

- ① 計画的な活動支援
- ② 目標志向的活動支援
- ③ レク支援への職員の負担軽減
- ④ 個に着目した支援

●実際の取り組み

- ①③ 企画書などの様式の整備。曜日別の担当職員チームの設定。手順書作成。レク道具の一覧作成。ゲームのデータベース化。
- ② 個別性（引き出しレク・特性別レク）と集団性（わくわくレク）の2つの視点のレクの構築。
- ④ 支援目的により分類（認知症・寝たきり・視力が弱い・聴力が弱い方等）

＜活動の成果と評価＞

【職員】

- ・レクに対しての苦手意識が低下した。
- ・利用者の、今まで知らなかった能力の発見に繋がった。
- ・企画書によるレクの組み立てで、計画的に行えるようになった。
- ・利用者全体を見つめなおすきっかけとなり、「普段レク」の発想が生まれた。

【利用者】

- ・メニューを短時間で区切ったことにより、最後まで集中して楽しめている利用者が増え、参加率も上がった。
- ・まだ試験的ではあるが、これまで対応しづらかった寝たきり、視力・聴力の弱い方、高次脳機能障害等の個別レクについて、仕組みづくりのきっかけとなった。

＜今後の課題＞

- ・試験的な段階から普遍的な取り組みへ定着させていくこと。
- ・「普段レク」の仕組みづくり。
- ・レク機材の充実・環境整備。
- ・家族との連携強化（個別レクを行う際の情報収集等）。

＜参考資料など＞

- ・月刊デイ

【メモ欄】